

上げたりニモとか、あとは、会場内にはモリゾー・ゴンドラが2会場を結んでいました。このモリゾー・ゴンドラがとても楽しかったのと、海外の方々に非常に驚かれたのは、長久手会場から瀬戸会場に行く間に地域の民家の上にさしかかると、ゴンドラがいきなりぱっと白くなりプライバシーをのぞくことができないように、新しい先端技術がそこにありました。また、キッコロ・ゴンドラと、あとIMTS、そしてグローバル・トラム、そして人の力をかりての自転車（ペロタクシー）があって、人々をバリアフリーでお手伝いさせていただきました。

### 3. 万博の成果と人々の交流

今も言いましたように、いろんな形でエネルギーの問題や、または環境技術、それが最先端の技術の提供でしたが、もう一つは、新たな社会の行動のシステムというものも採用されてきました。ごみの分別が9つもあり、バックヤードでは20数種類の分別をしていましたが、一般の方々が目に見えたものは9つあって、こういう9つの分別もないような地域のほうが多くて、アメリカの方でも、ヨーロッパの方でも、ほんとうにごみの9つ並んでいる箱の前でみんなうろろうろしながらどっちに捨てようかと悩んでいると、横からボランティアの方が、これはここ、あれはここちゃんと分別を教えてくださいだったりとか、または環境配慮に対するハード面の建設、ユニバーサルデザインに関しては、グローバル・ループで示したように、私たちは地面をずたずたと踏み込むのではなくて、むしろ、地面の上を、空中回廊で歩くことによって、地球を優しく守っていきましょうということのシンボリックなものを建設しました。今も申し上げましたパーク・アンド・ライド方式や、あとは自然体感プログラムということで、エコツーリズム、エコツアーというものもそこでできたわけなんです。もちろん、どっちにも欠かせられなかったことはITです。昨今、ITというものは私たちの社会にとっては非常に欠かせないものになってきました。

もう一つは、多様な文化の価値観の共有です。これは歴史、文化、民族の多様性を示す展示や祭事がたくさんありました。その中にはナショナルデーがあり、そしてナショナルデーの為に、ほんとうにいろんな国の方々が来られて、自分たちの

民族舞踊や、今までにこれだけたくさんの国の国歌を聞くチャンスは無かったと思いますが、いろんなリズム、そしていろんなトーンでの国歌があるんだなということを感じさせてくれました。また、皆様もご存じだと思いますけれども、一国一市町村フレンドシップ事業の中で、愛知県内86市町村の旗とフレンドシップ国の旗と一緒にマッチングさせて、フレンドシップピンというのがものすごいコレクターの方々の中では好評だったことは記憶に新しいかと思います。ナショナルデーのためにつくられたものですが、非常に素晴らしい交流になったと思います。

もちろん、スタッフ間交流もありました。パビリオン同士の方々、自分たちが自分の国にいとこれだけ大勢の方々と出会うことができません。なのに、こうやって万博に来ると、大勢の国の方々と一度に自分たちが交流することができるからとても楽しかったようです。今でもたまにメールが来ますが、私たちの日本だけではなくて、世界中の方々が万博の中で交流をし、大きなインターネット・ネットワークというのができていて、みんなと今でも交流をしているわけなんです。そして、愛・地球会議などの学術的な会議があったり、あとはもちろん、グローバル・コモンといいまして、その中で大きな祭りやイベントがたくさんありました。

そして最後に、おそらくこれが一番大きかったものではないかと思うのと、これが一番これからもっと発展していくのではないかと思うのが、NGO・NPOによる、市民参加だったと思うんです。これは、地球市民村や、市民パビリオンがあったり、海上の広場の中でいろんなイベントがあったり、3万人以上のボランティアの方々が今回登録していました。

このボランティアという言葉は、ちょうど神戸の大震災のときにボランティア元年という言葉であらわされましたが、ボランティアをするということに対する楽しさということが一番多くの方々がここで知り、そしてもっと自分たちもやりたいという気になっているのではないかと思うんです。

万博が終わった後でも、皆さん方がいろんな形でのNGOやNPOの連携などで交流を今でも続けておられるようですが、とても重要に思いますのは、今、藤野政務官からお話がありましたように、これから国土形成計画の中で、全国計画と広域地方計画ということで大きく分かれていきますが、や

はり交流をすることというのはとても大事で、その人々の交流というのはどのようにしてこれからつくっていきけるのかということだと思うんです。

人々だけではなくて、情報や人の交流、そしてまたは団塊の世代の動きが活発になるという予測で、もしかしたら移転をする交流もあったり、あとは2つの地域交流といって、自分たちが住んでいるところと自分たちがとても好きで気に入って、頻繁に行ってみたいと思うような、そういうセカンドハウスを持つ交流、いろんなパターンがあると思いますが、これは、おそらくこの地域の中で考えたときには、非常に大きいのは、皆様方が出かけていって何かをすれば楽しいんだ



ということの認識が持てたことではないかなと思います。

#### 4. もてなしの精神

私は、万博会場に行き一番うれしかったのは、いろんな方々とお目にかかること、知らない方同士が会話をしていることでした。長い列、ほんとうに長時間並んでくださった方々には大変お礼を申し上げたいんです。とても暑かったです。その暑い中で、皆さん我慢されて、それでも秩序が乱されることなくいられたことが、私は外国人にとっても頭が高かったです。なぜかといいますと、皆様方からほめられるんです。日本人は気が長いですねと。日本人はほんとうにまじめですねと。日本人は大変礼儀正しいですねと言われると私は非常にうれしかったですね。

海外だったら、とにかく列の中に割り込んで入るし、私はユーロディズニーに行ったことがありますが、並んでいると、並んでいる横から人がどんどん入ってくるんですね。それで、こっちから怒りつけないとちゃんと後ろの列に行かないような状況でした。けれども、日本人は絶対割り込んでこ

ないということを見ていますものですから、ヨーロッパから来られた方々は非常に感心していました。

その上に、前後にいらっしゃった方々と交流をして、それで、暑いですねなんていう話になると、今回は何回目ですよとか、また私自身も、瀬戸会場から長久手会場に戻るときにゴンドラにはものすごい人が並んでいたもので、バスの列もまた長かったのですが、バスのほうが人が一度に入るわけですから、ちょっと早いかなと思って、私も並びました時に、トイレに行こうと思い、すみませんけど、ちょっと席をとっておいてくださいとお願いして、トイレに行きました。暑かったから、じゃ、ちょっと何か飲み物と思って、買って戻ってその方に差し上げたら、お礼を言われ、その方々に仲間がいて、どこからいらしたんですかと言うと、私はどこどこで、こちらもどこどこ。じゃ、お友達同士ですかと聞いたら、いや、違います。万博で知り合って、毎週こうして私たちが約束して出合っているんです。と言われました。ということは、今まで全く関係のなかった方々が、そうやって列を並んだだけで友達になれて、それでまた交流が深まっていく。万博というとても楽しかった場所でまた自分たちの新たな交流がそこでできたりとか、または、ほかの方が、すみませんけど、席をとっておいてくださいと言われて、私がとっておくと、アイスクリームを買ってきてくださって、暑いですから召し上がってくださいとか。

このもてなしの心といいますか、もてなしの精神というのはとても大事なことだと思うんです。これは、最先端技術によるロボットがあって、いらっしゃいませロボットってありますが、気配りとか人々との交流というものは、やはり人間同士でやるからこそほんとうの心のこもった交流になるわけですから、そういう点では、万博のとても大きな成果の1つには、こうやってこの地域の方々がこのホスピタリティーの気持ちを持てたということではないかなと思うんです。

万博の開催前に、一番私がお願いしたことは何かといいますと、いろんなところに行きますと、これは日本の博覧会ですと言うと、開催するのとか、なくなっただけじゃないのとかと言われるととても私のはがっかりしました。ちゃんと開催いたします。と。だけど、新聞を読んでいたならば、いろんな反対があつてとかいろんな方に言われるものですから、何で

こんなことになっちゃったのかしらと思って、ちゃんとあります。これは日本の博覧会です。これは、日本という国が70年代の万博からどれだけ発展したかということを世界の人々に見ていただき、そしてなおかつ日本人のすばらしさを、日本の自然に対する気持ちや人々との交流というものを見ていただくための万博です。と、申し上げると、何か人ごとのような感じなんです、愛知県でやるんでしょみたいな感じで。ですけど、愛知県というところがたまたま開催するために選ばれた場所で、だけど、愛知が日本を代表してくれるんですよ、だから、ぜひ来てください。と、お願いしました。

こちらの地域でまた万博の広報をしますと、ぜひ私たちがここの地域で日本を代表する気持ちになっていただきたいと。そうしないと、外国の方は、先ほども申し上げましたように、日本を見たときに、別に四十何都道府県があつてとか、どこの地域はということを見ているわけではなく、むしろ、外国人にしてみれば、日本は日本なんです。ですから、自分たちがどこの空港でおりても、そこの空港からおりて一番最初に出会った日本人が親切にしてくれれば、日本はすばらしいところだと、日本人は親切なんだというふうに言ってくれますが、そこの地域でおりて、たとえそれが九州であっても、成田であっても、北海道であっても、そこで意地悪されたらば、日本人はみんな意地悪なんだというふうに思われてしまうから、やはりもてなしの精神は、外国から来られた方、他の地域から来られた方々に対しては、ぜひこのホスピタリティで接してほしいと、申し上げました。

## 5. エピソード「もてなしの精神」

私が言うまでもなかったんですけど、なぜかといいますと、やはり中部地区の方々は、そういう点では非常にすばらしい



もてなしをしてくれましたし、海外から来られていたいろいろなパビリオンの方々のお話を聞いたりしますと、ほんとうにみなさんすばらしく、日本人は優しく、親切で、幾つかエピソードもありますが、1つだけ、これはすばらしいなと思いましたのが、万博の会場の中ではなくて、むしろ外で、海外から来られた方々が、オリンピックと同じように6カ月間日本に滞在するわけですから、マンションとかいろいろなところを借りなければいけなくて、もしかしたら皆様方の地域のところでもそうやって外国の方が住まわれていたことがあるかもしれないんですが、日本の公団が、今、UR都市機構になっていますけど、そこの建物の管理人の方が、外国人が来るが、英語がわからない。とにかく何も交流もしたことがないのに、何で自分が外国人担当になったかよくわからなかったらしいんです。管理人さんが、こうやっているいろいろポスターを張って、ごみの分別はこうしてくださいとか、何時以降はうるさくしないでくださいとか、いろいろなものをべたべたあちこちに貼ったりとかしていたらしいんですけど、一番最初に来られた外国人で入居された方が、先進国でなくて発展途上国から来られた方だったらしいんです。

先進国のパビリオンの方々には、もちろん自分の国の予算があるわけですから、滞在するところの家賃も出ますし、あとは家具とかはレンタルでお借りすることができたのですが、発展途上国の方は借りることができず、安いいサイクルショップで家具を買うことにしたらしく、そのリサイクルショップを探すのに大変なので、説明ができなくて困っていると、その管理人の方は、仕事じゃないのにリサイクルショップまでおつき合いして家具を買ってさしあげたり、または携帯電話が欲しいと、言われれば、また地図で説明するとなかなかわからないので、連れていったほうが早いと思い、また連れて行って、それで一緒に買ってさしあげたりして。

そうしたら、そのうちに、そこに住むようになった外国人みんなが、彼のところに家具を一緒に買いに行ってくれとか、携帯電話を一緒に買いに行ってくれと言われ、彼の仕事ではない仕事を彼のボランティア精神、もてなしの精神で彼がやっていたそうです。ほんとうだったらば、そのために別の方を雇ってやらせるべき仕事に彼が全部対応してくれたおかげで、外国人には非常に喜ばれて、お別れするときに、彼がす

ごくうれしかったとおっしゃっていたのが、夏休みの間に、中東の方が自分の国と一緒に撮った写真を1枚持って帰って、アーティストの方にその方の肖像をかかせて、大きな絵にして、日本に持ち帰って、プレゼントしてくれた。ということです。ということは、外国の方も、この人はよくしてくれているんだということがわかって、わざわざ自分の国に持ち帰った写真で、わざわざ絵かきさんのところに持って行ってかいてもらって、わざわざまた持って帰ってきたということは、外国人の方も彼にやっぱり何か示したかったのではないのでしょうか。やはりこれがほんとうの交流だと私は思います。

これから私たち日本は、アジアの中でも更に大きく発展していく中で、アジアの国々の方々と交流しなければいけないですし、今、名古屋港から出て行く輸出高が日本一になりその多くは中国に目がけて名古屋港から出ているそうです。そしてなおかつ、これからシームレスな形でのアジアを考え、そして東アジアと一緒にいろんな意味でのブロードバンドで結んでいこうという、計画の中で、このような交流が私たちの将来の経済というものをきちっと生んでいってくれると思います。

そういう交流がない限りは、ただ書類だけの上での交流だったり、または、それはビジネスにはなるかもしれませんが、長く深く続けていくということがとても重要で、日本からたくさんの産業が、既に出てはいますが、これからアジアがどんどん発展していく上においても、日本はアジアの中での自分たちのリーダーシップ・アビリティであったり、または一緒に交流したり、一緒に仕事をしていくということの交流の仕方、技術というのがすごく大事だと思うんです。

## 6. 交流による地域の活性化とトラスト制度

海外から来られた方々にもっと日本を知っていただくためにやっていかなければいけないことがたくさんあると思いますが、その1つには、私はとても重要だと思いますのは、私たちが今持っているストックをどう活用していくかだと思うことです。ここの地域の中で今までやってこられたことというのは、大きな公共的な事業だったりしますと、国から予算をもらい、そしてその予算を上手に活用しているわけですが、これからはそういう予算も少しずつ減っていきそうですし、

お金の予算がないのならば、もっと私たちも人間として、私たちが国民として、私たちの力というものをそこで合わせていくということがとても大事だと思うんです。それが、おそらく今回ボランティアをする機会がたくさん自分の持っている力というものをみんなが身につけてくれたのではないかと思います。活性化していくためにも、やはり人々が出かけていく、それが1つだと思うんです。

もう一つは、どのように交流していくかということだと思います。あと、自分がどのように自分の地域の中で役に立てるかということを考えるということも大事だと思います。役に立つ人々と、そしてその役に立つ人々を支えてくれる制度づくりというものもとても重要だと思いますが、私は、いつも講演の中でお話しさせていただくのに、地域の活性化というのはいろんな形があると思うんです。

私は、イギリスのナショナルトラストというところの地域の活性化の仕方がとてもいいなと思っています。これは1800年代から始まったトラストです。日本も、これからトラストというものも考えられるような時代になって、そしてトラスト制度というものもこれから見直すようになっていくと思いますが、今まで自分が持っている財産を子供たちに残していこうとするときに、やっぱり相続税というものはとても大変なものです。イギリスも大変になった時期があって、それが1800年代のころになりましたらば、産業革命によって、イギリスのすばらしい田園風景というのが産業によってどんどん破壊されていきました。

そこで、湖水地方に住んでいた『ピーターラビット』という物語の作者でベアトリクス・ポターという女性が、このイギリスのナショナルトラストを一番初めに考えた女性でした。彼女は、地域でどんどん相続によって土地が荒らされたり、またはとられたりしていく中で、どうやって保全していくかと考えたときに、トラスト制度をつくるしかないと考えました。どこかのトラストに寄附することによって保全していこうと彼女が農地を買い始めたんです。

本を書き少しの印税と、自分の親の遺産も使いながらどんどん買っていきながら、それをイギリスのナショナルトラストの初めとして使いました。その農地を保全することによって自分の国の文化というものを保全することができ、コンサ

バージョン運動というのはそこから始まりました。私たちはふだんでも、こういうところはもっと緑を増やせばいいのとか、ここを守らなきゃいけないののと思いますが、私たちが見ている緑とかは、結構人の物であったりします。人が持っていた土地の緑が私たちにとっての自然であったり、今は農業も含めてそうですが、林業をやっている方々は、結局自分たちが先祖からいただいた財産が私たちの風景に大きく貢献してくれているわけですが、自分たちにとってみれば、維持管理していくのもとても大変なことになっています。そういうものを維持管理していくためにおいても、やはりどこかで資金があったり、または人の手もなければ保全していくこともできません。愛・地球博のように、大勢の方々がボランティア活動をしてくださったように、皆様方の持っている土地のところでも、ボランティア活動ができるような場をつくることもとても大事だと思います。

ですから、やはり活性化というのは、今までは国がやってきたこと、そして国が地域のためにやってきたことに対し、今後は国ができることと地元が地域ができることというものをはっきりと見きわめることが大事だと思います。また、この地域にしかないものを大切にしていくためにおいても、万博を開催した21世紀初めての地域として、万博の遺産を活用していただきたいと思っています。

## 7. 産業観光

イギリスのナショナルトラストの中にもう一つすばらしいことがあります。それは単なる自然環境を守るだけではなくて産業観光というものもそこにあるわけです。この産業観光というのは、もちろん産業革命の時代の昔の工場です。少しはトヨタの産業博物館の中にもあるような感じでもありますが、町ごと1つの観光産業になっていまして、そこは昔の紡織をやっていたスピニングの会社が、そこは大きな水車があり、山からおりてくる大きな滝の水で電力をおこし機械を動かして、1800年代の機械そのものがいまだに動いているわけなんです。

よく蒸気機関車をそのままきれいに保全して、そしてボランティアで預かっている方々もいますけれども、それと同じように、大きなミルの機械をそのまま保全して、ちゃんと油

をつけたりとか、昔からどこかが壊れたらば手で補修をしたりする職員がそこにいらして、なぜそういう産業観光が必要かといいますと、私たちの最先端技術というのはでき上がっているものしか見ないし、あとコンピューターでつくられたものは見えても、どうやってもともとアナログでできたのかということが、私たちの子供たちがわからないわけなんです。そういうことを見ることによって興味を持ち、また新たな技術というものもそこで生まれるのに、そのステップを全部省いた形で最先端に今来ているわけですから、やはり産業観光は近代のものも含めて昔はどうだったかということを見るということが大事だと思うんです。

私たちが日本の中で生活して、これだけ豊かになった日本というのは、やはり今まで昔の方々がいろんなものを自分の手につくったり、またはいろんなものを工夫する知恵というのが生活の中からあったと思います。そういうものをほんとうの形で残していくということも大事ですし、昔ながらのやり方というものもとても大切だと思います。そういう教育の場、そして私たちの学びの場というものがなく子供たちが育っていることが大変残念なことだなと私は思いますが、皆様方にもちょっとお聞きしたいなと思いますのは、溶接工場って見たことはありますよね。見たことのない方っていますか。若い方で見たことのない方はいらっしゃいますか。大体見えていますよね。私が一番覚えているのは、子供のころに、うちの父が何かつくるときに溶接工場と一緒に行きました。そこで父に言われたのは、青い炎を見ちゃだめだと、目が焼けると言われて、親に言われて初めてそれがわかって、だけど、身近なところにそういうものがあって初めてわかることなんですね。

または、若い方は私たちが今住んでいる家はどう建設されているかということをご存知の方が多いと思うんです。むしろ、最近は、プレハブ住宅というと、ぱっとでき上がったものをただクレーンで持ってきて積み上げてできているのが家だと思っている子供たちもいたり、私たちは、クレーンで大きな高層ビルをつくっているところを見ることは、外からできても中から見ることができなかつたり、私たちにあってブラックボックスというのがたくさんあって、そのつなぎを私たちがやはり子供たちのためにもつくっていかなく



ればいけないと思うんです。

それはやはり社会見学などで、1つの観光遺産として私たちが使っていくということがとても大事なことだと思います。もちろん、それは1つの観光の仕方ではありますが、交流人口をつくるためには、観光する場所がたくさんあるということがとても大事だと思います。

そして、ついこの間亡くなられた木村尚三郎先生がいつもおっしゃっていたのが、訪ねてよし、住んでよしと。やはり行ってみて、楽しかったな、素晴らしい環境の場所だなと思ったりすれば、今度ここに住んでみようかなと、また、別荘をここで持ってみようかなとか、セカンドハウスをここにしようかなという気持ちになると思うんですね。それがほんとうの観光だと私は思います。人の心を打ち、そしてその打った心が響いてくれることだと思います。私は、中部地区というのはそういうものがたくさんあるような気がします。

今回、万博の中でたくさんそのストックが出されて、そして私たちにしてみれば大きな棚卸しがされたと思います。この棚卸しされたものを次のステップに持っていくことが次の宿題だと思います。万博が始まって、万博が終わることでもう終わりではなくて、むしろ万博が終わったことで、これから地域の活性化と地域の発展というものがこれから始まることだと私は思います。

## 8. 魅力ある地域づくりのために

この魅力ある日本、そして魅力ある地域をつくっていくためには、これだけ素晴らしい財産を持っているという認識の上で、それを次にどう調理していくかということが大きな課題だと思います。調理していく上においても人々の力がとても重要ですが、もしかしたら人を雇うほどの資金がないかもしれない。しかし、ボランティアをしたいと思われている方がたくさんいらっしゃる中なので、そういう方々をもっと活用していくような社会づくりをしなくてはいけないと思います。

今までは、私たちの仕組みというのは、例えば地元の商工会議所、JC(青年会議所)、ロータリークラブ、または地方自治体が頑張ってつくり、もちろん多様な主体による地域づくりをしてきたと思いますが、もっと多様化が必要だと思います。自分一人でもできるまちづくりはあります。例えば



ごみ拾い1つだけからスタートしても、それは素晴らしい立派なまちづくりだと思います。人が歩いたときに不愉快な思いをしないで、ここはとてもきれいで清潔だと思ってもらえたと。それだけが自分にとっての報酬かもしれませんが、立派な報酬だと思うんです。自分が誇りを持つ、または自分が自己実現をできるということの認識であったりすることだと思うんです。

なぜボランティア活動をみんながするかとというと、人のためということではないんですね。自分のためなんです。自分の満足のためにするわけなんです。ありがとうと言われてうれしいという気持ちはあると思うんですけれども、ありがとうと言われることでボランティアをするわけじゃないと思うんです。むしろ、自分がすることによって自分が気分がよくなる、それでたまたまお礼を言われてもっと気分がよくなる、そういう仕組みではないかと思うんです。

高齢化社会が始り、あと若い方がいる意味では少なくなって少子化だとは言いますが、元気な高齢者の方々がたくさんいらっしゃるわけですし、一生仕事をしたいと思われる方がいらっしゃるのに仕事をさせないということもおかしいと思います。ただ、報酬がなくても何か自分が役に立てることをさせてもらえればいいのにとわれがちですが、私の母は今76歳なんです。アメリカに住んでいます。住んでいる地域はディズニーワールドの周辺ですが、ここが二、三十年前に何となく今の中部地区に似ているような地域です。というのは、ディズニーワールドができたことによって国際空港ができ、そして地域のインフラができ、万博は仮設ではありましたが、ディズニーワールドがあり、そして周りには最先端の技術を持つケープカナベラル、宇宙産業があったり、または、そこには宇宙産業を支えるためのいろんなハイテク産業やレーザ

一産業とかがあって、そういうものが全部集まって地元のインフラ整備というものが充実してきて、国土の整備もそうですが、港の整備も含めて全部できてきました。

それによって早く活性化して、今アメリカでは、ラスベガスに並んで一番伸びている地域になりました。というのは、道具がそろると物事は早く動きます。ただ、早くに動くための誘導の仕方というのがとても大事です。フロリダはコンベンション都市でもありますので頻繁にコンベンション開催されます。

うちの母は76歳ですが、今でも仕事の話があります。それは、今度、日本人の方が来る国際会議があるので、よかったら通訳してください。と母に電話が来ます。彼女は国際会議場に出かけて行って、日本人が出しているブースで彼女が座ってさしあげると、日本の方はどうも奥ゆかしいので、パンフレットを配ったりするのを何となくためらうみたいで、英語もできるわけですから、彼女が一生懸命アメリカ人に声をかけて、これをどうぞ読んでくださいと、この企業はこうですよとやってさしあげています。

おもしろいのは、アメリカの企業に雇われるときは、彼女は報酬が1時間8ドルですが、それが、日本語をしゃべったり、自分が持っている特技を使って仕事をすると、1日18ドルになります。ですから、プラス10ドルです。もちろん年金生活ではありますが、母が出かけて行って、自分が役に立っている、自分が何か行動ができるということが彼女にとっての元気の元になります。コンベンションセンターで働いている方々の中で、彼女の周りでは一番最高が80歳です。一番下が65歳なんです。その幅の中で国際コンベンションが成り立ってしまうわけです。

コンベンションでなぜ若い方々が雇われないかというと、彼らは一生する仕事に励んでもらわなければいけないので、こういう臨時的な仕事は年寄りやリタイアした人たちがやるべきだと。彼らにしてみれば、知恵があるし、知識もあるし、地元のことをよくわかっているわけですから、むしろコンベンションで来られる方々とか展示している人たちは若い人たちが多く、逆に彼らのほうがいろんなことがわからないので、そういう団塊の世代のもっと上の方々がお手伝いしているわけですね。

ですから、そういう点では、彼女からよく、新しいコンピューターができたとか、新しいシステムソフトウェアがあったとか、76歳の母がシスコがね、なんていう話を私にすることが私にしてみればすごく不思議に感じます。それで、彼女もどどんいろんな知識を得て、若い方や私たちの年齢とちゃんと通じることができるということですね。

ですので、私は、これから魅力ある地域づくりをしていく上においても、やはりすべての層にちゃんと雇用があるような状況、むしろ自分が働きたいときに働ける、自分が役に立ちたいときに役に立てる、そしてそういう人々に支えられている地域というのがほんとうに魅力ある地域ではないかなと私は思いますので、ぜひ、この愛・地球博によって、これだけ大勢の方々の参加、そしてこれだけ最先端の技術、そしてある意味では新しい社会行動が生まれた今、早く次のステップをとっていただき、またいろんな創造をここで育てていってくれるとすばらしいと思います。

お話があちこち飛んでしまいましたけれども、この後、またパネルディスカッションの中で、私が話せないようなところの話をパネリストの方々がたくさんしてくださいますので、私もその中に参加させていただいてお手伝いさせていただきますと思います。ご清聴ありがとうございます。